

高校生を対象とする令和4年度建築設計競技の表彰式について

今年で58回目となる高校生を対象とする建築設計競技の表彰式が、令和4年10月22日(土曜日)、鹿児島市のかごしま県民ホールでおこなわれました。

今年は「家族みんなで幸せに暮らす住まい」を課題とし、4月に募集を開始し、9月22日に締め切りましたが、154点の作品が寄せられました。

鹿児島大学大学院の木方十根教授を委員長とする審査委員会において、投票と熱心な議論を経て、入賞作品を選定していただいております。

応募いただいた生徒の皆さんとご指導いただいた先生方には、心から感謝申し上げます。



1 入賞者一覧

金賞	比良 香蓮	(鹿児島工業高等専門学校	3 年)
銀賞	市渡 美心	(鹿屋工業高等学校	3 年)
銅賞	平田 結愛来	(加治木工業高等学校	2 年)
銅賞	内田 拓実	(隼人工業高等学校	2 年)
審査委員長 特別賞	川越 乙葉	(鹿児島工業高等専門学校	3 年)
佳作	稲葉 陽大	(鹿児島工業高等専門学校	3 年)
佳作	清水 胡桃	(鹿児島工業高等学校	3 年)
佳作	中野 良太	(鹿児島工業高等学校	2 年)
佳作	中村 佳聖	(鹿屋工業高等学校	3 年)
奨励賞	生駒 治翔	(鹿児島工業高等学校	3 年)
奨励賞	岩崎 さくら	(鹿児島工業高等学校	3 年)
奨励賞	錦戸 智哉	(鹿児島工業高等学校	3 年)
奨励賞	橋口 優斗	(鹿児島工業高等学校	3 年)
奨励賞	倉橋 庵	(鹿児島工業高等学校	2 年)
奨励賞	遠矢 晴叶	(鹿児島工業高等学校	2 年)
奨励賞	中村 優梨	(鹿児島工業高等学校	2 年)
奨励賞	松元 紗椰	(鹿児島工業高等学校	2 年)
奨励賞	高原 歩夢	(川内商工高等学校	3 年)
奨励賞	長井 瑠花	(加治木工業高等学校	2 年)
奨励賞	黒崎 梨乃	(鹿屋工業高等学校	3 年)
奨励賞	福原 将秀	(鹿屋工業高等学校	2 年)
学校賞	鹿児島工業高等専門学校		

2 講評

- 第58回の建築設計競技の課題は「家族みんなで幸せに暮らす住まい」です。現在、市街地のアパートに住んでいる家族が、このたび地方都市の郊外に新たな住まいをつくり、生活を楽しみ、自然を感じながら、地域の方々と交流するなど、家族みんなで幸せに暮らしたい、という思いから建てる家を考える、という設定です。
- 敷地は360㎡とゆったりしていて、正方形に近い形をしています。西側で幅6mの道路と接し、南側・東側・北側は隣地であること、道路及び隣地との高低差はなく、建ぺい率60%、容積率200%の制限がある以外は、比較的緩やかな条件設定です。
- したがって、(6)その他、のとおり、敷地やその周辺環境については、以上要項Iの条件を遵守したうえで、様々な設定、例えば「敷地の周囲はのどかな郊外の風景が広がっている。」「敷地の南東方向に地域のシンボルである山を眺めることができる。」「敷地内に四季を感じる樹木(桜・銀杏など)がある。」などといった設定が可能である、としました。
- 予備審査では、「設計条件・要求図面」について、特に「住宅としての居住性、独創性が優れているか」「表現技術が優れているか」、および「設計条件・要求図面等に対する重大な不適合等がないか」についてのチェックを行いました。その結果、応募総数154件(昨年より5作品増加)中、設計条件等に不適合のあるものや図面が著しく稚拙なもの、および未完成のものといったCランクは一点もありませんでした。全作品から27作品をAランク、127作品をBランクと仮判定し、本審査に推挙しました。
- 本審査では審査委員が全ての作品に目を通し、入選候補作品を慎重に審査して、金賞1点、銀賞1点、銅賞2点、佳作4点の作品を決定し、引き続き奨励賞12点と学校賞1校、および審査員長特別賞1点を選定しました。参加頂いた各学校の生徒さん達、並びに指導頂きました先生方の熱意と努力に敬意を表します。未だコロナ禍の影響が残る中、昨年を上回る応募総数となり、また作品の完成度も高く、実りの多い設計競技となりました。来年も多数の応募を期待いたします。
- 課題への取り組みとして最も注意して頂きたかったことは、「家族の要望」について想像力を働かせ、敷地条件を活かした設計を心掛け、考えたことを図面に十分に表現すること、です。設計者が「施主の気持ちになって考える」ことが出来たかどうか重要であるとともに、今回はとくに西側で接道しているという敷地条件をどのように捉えたか、が重要な鍵でした。応募された皆様は今後もうこういったことを考えて頂ければ嬉しいです。
- 予備審査の状況のとおり、今回の生徒諸君の作品は、いずれも完成度が高く、全体として作品のレベルが上がってきていると感じました。そのなかでも最も力の入った作品を、受賞作として選ぶことが出来たと考えています。今回の課題をきっかけに、今後も住まい手の立場に立った設計を心掛けて下さい。審査委員一同、応募された皆さんの今後の成長を期待しています。

令和4年10月1日
建築設計競技審査会
審査委員長 木方 十根

3 入賞作品



[金賞の講評]

金賞は、「木と暮らす —屋根と床が繋ぐ空間—」と題された作品です。大屋根と二階の床スラブを張り出し、それらを木造の架構で支えるという構成の建築です。外観は木の上の秘密基地、ツリーハウスをイメージしたもので、筋交いもこうした外観イメージを形づくる重要な要素と捉えられています。本案はこのように構築的な（英語では tectonic といいます）テーマをデザインの主題に置いている点で特筆に値します。高校生の設計競技では「間取り」が作品の主題になりがちです。昨今かなりの住宅が大壁の枠組工法で建てられていることが影響しているかもしれません。しかし建築とは本来、様々な資材をどう集めてどう構成するか、を考える術（わざ）です。その構成によってウィトルウィウスのいう「用・強・美」を発揮させることが古代から変わらない建築のテーマなのです。こうした建築の本質に高校生の年代で気が付いたことはとても素晴らしいことです。この作品のもうひとつの魅力はピロティになっている一階の構成です。大きく広がる二階床スラブの下に、なかば独立した格好で和室や寝室、リビング・ダイニングを配置し、あえて玄関を設けていません。これによって外部、さらには地域に開かれた住宅が提案されています。地域の人々とコミュニケーションを取ったり、四季の自然を感じたりしながら幸せに暮らす場面が様々な思い浮かびます。以上のように設計に深みが認められる本作品が金賞に選ばれました。



[銀賞の講評]

銀賞は、「Life with nature」と題された作品で、ルーバーからなる建築の外壁によって風や日光を適切に調整しながら内・外の空間をつなぐ提案です。今回の敷地は西側で接道する設定となっており、建物の正面をどのように構成するか、は案外難しいテーマだったと思います。にもかかわらず悪条件である西日への対策を逆手にとって住宅の個性に変えている点が本提案の素晴らしいところです。ルーバーで守られつつ風の通るエントランスコートで強い日射による影響を緩和したうえで、入口と同レベルで設けた吹き抜けのあるラウンジで親しい友人や地域の人々を受入れながら、家族の空間はレベル差によって緩やかに区分し、プライバシーを確保しています。こうした空間構成によって、タイトルの通り自然を感じながら暮らす提案になっていると同時に、地域に対する住宅に対する顔もつくっています。ただし一面のルーバーで構成された立面は大味になってしまわないか少し心配です。開閉できる、とのことですが、それだけではなく、ルーバーの材寸やピッチ、その組み合わせなども良く検討してみると良いと思います。

審査委員長特別賞



審査委員長特別賞
 建築工業高等学校 3年
 川越 乙葉

[審査委員長特別賞の講評]

審査委員長特別賞は、金賞・銀賞に勝るとも劣らない力のこもった作品を選びました。「音と緑で繋がる家」と題された本案は、音楽好きの一家のための住宅です。正方形のコンパクトな建物ですが、南側の庭に面したファミリーテラスとダイニング・リビングの吹き抜け、ミュージックスペースと繋がる階段室などによって、立体的な広がりを持った建物になっています。なにより迫力のあるパース、丁寧な彩色が施された図面をレイアウトしたプレゼンテーション・シートは密度や完成度が高く、見る者を引き込む力があります。このように内容・仕上がりともに本作品は他の模範となるものであり、審査委員長特別賞に選定しました。